

これからのことを…4の(10)

●方丈記から(その9)

岩手農業博物館資料より



前号で「方丈記で心に残ったこと」を

方丈記終章に入る前に、前号で「無情ではない、時を越えるもの」「長明の質素な山中の生活」「長明さんの緩さがいいなあ」と書いてきました。今回はその続きから。1212年、長明は日野の草庵で方丈記に30年余り前の出来事を書く。

方丈記災害 1.飢饉

以前に何回も触れた飢饉の部分の訳から。養和の頃であったろうか、もう大分昔となって覚えていない。2年の間世の中全体飢饉となって、想像もできないようなひどいことがあった。ある時は春、夏が日照り、ある時は秋が大風、洪水など良くないことがうち続き、稲や麦などの五穀は全て実らない。夏に植え付けの作業はあっても、秋に刈り取り、冬に収穫のにぎわいはなか

った。『これによりて、国々の民、或いは地を捨てて、境を出で、或は家を忘れて、山に住む。さまざまの御祈りはじまりて、なべてならぬ法ども行はるれど、さらにそのしるしなし。京のならひ、何わざにつけても、みなもとは田舎をこそ頼めるに、たえて上ぼる物なければ、さのみやは操もつくりあへん。……』

さまざまのお祈りが始まり、特別な修法なども行われるのであるが、全くその効果はない。京のならわしとして、何事につけても、供給のみなもとは地方にこそ依存しているわけで、何一つとして物が京に送られてこないのであれば、そうそういつもの体裁をつくらっていられようかと。財を持つ人はそれを処分して食べ物を得ようとするけれど、お金より粟が重く扱われていて、お金の値打ちがない状況だった、という。長明はそこで親子、夫婦の情愛を目にする。京の人口10万人前後の内、飢饉、疫病で42300人余りなくなった。

< 飢饉のこと >

この養和の飢饉(1180~81)よりずっと前、欽明天皇28年(567)に日本最古の

飢饉の記録が「日本書紀」にある。『郡国、大水いでて飢る。或は人相食む』と。江戸時代は飢饉が多く、120回から130回も。その中で3

大飢饉とは享保(1732)、天明(1782~87)、天保(1833~36)の飢饉。天明の飢饉の被害が甚大で100万人近い人がなくなる。

その中心だった東北地方各地に飢饉の供養塔が。青森県の八戸市博物館に市内対泉院の飢饉供養塔の解説があり、「私たちの先祖の人は、豊年と凶年をくり返ししながら、懸命に生き抜いてきました」との前置きに続き、その塔の裏面に「安永7年(1778)の頃からここ数年の間耕作はよくなかった。天明3年(1783)の大凶作の様子は4月11日の朝に雷が強く鳴り、やませ(冷たい風)が吹き、大雨が降り出した。それ以来、8月の末まで雨が降り続き、9月1日にようやく晴れた。夏の間ずっと綿入れを重ねて着なければならぬほど寒かった。田や畑の作物は実らず、青



飢饉草紙(国宝ネットから)

立ちのままだった。人びとは階上岳(はしかみだけ)でわらびの根を掘り、海藻や山草はもちろん、わらも粉にして食べた。そればかりか……とあると。領内の人口6万5千人の内3万人余りがなくなった。

< 何故飢饉が? >

確かに飢饉は自然災害が深く関わっているが、養和のそれは背景として源平争乱があり、耕作する環境では決してなかった。飢饉は飢饉を、疫病を生じさせた。『乞食、路のほとりに多く、憂へ悲しむ声耳に満てり』と長明は書いた。

立川昭二さん(1927~2017・歴史学、病理学)は世界や日本の各地の飢饉や疫病の碑、塔を巡って歩き、飢饉や疫病が人間の歴史を作ってきたのではないかと書かれる。著書「病と人間の文化史」には、飢饉の直接的な原因は異常気象で

あり、疫病のそれは病原体であろう。

しかし、飢饉や疫病は自然的要因のみでおこるのではない。また、農業技術や医学衛生の水準だけがそれを左右しているのでもない。より深く重い条件はどこにあるのか。

支配体制の維持のためにとられた支配者の失策が。天災ではなく、人災であり政災、その死は生物学的な死ではなく、社会的な死である」と。また、「戦時中、日本軍の進撃によって、何百万もの中国人・ベトナム・インド人を餓死させたことを言い出づる人もない」とも。

飢饉は子どもにとっては一番受難だが、状況を体で読み込む子どもが先頭にたつて民衆の動きは数百万人規模で伊勢へ。江戸時代おかげ参りは何度も。抑玉へのはげ口だったか。

食料は全世界に均等に分配できる量は十分あるというのに、世界では今も飢饉が。飢饉ということだけではなく、内戦等の戦争や農業政策により、一方で有り余る食料と、一方で飢えという、とても不均衡な世界が見えてくる。そんな世界の中で私たちは生きている。立川さんは空の道が疫病を異常接近させると37年前の著書に。

正に今、コロナ禍である。

< そ こ で >

野菜は地方からくるとの方丈記の描写は、今も800年以上前と同じで、関東の電気供給は地方福島に依存していたことをどこか想起させる。先日のEテレでの番組「鴨長明」を見ると、その原発事故から生活を全く変えた方のお話があり、電気をほとんど使わない、1か月200円台の生活を。それでも十分やっていた。『自分は鴨長明かなと思う』とも。

グローバルと言われる今の世界が新型コロナで立ち行かなくなっている中で、自分ができること、生活を見直すことが求められているように感じています。上記の方のように中々できないけれど、自分流では、そこにあるもので暮らしたら 裏面下へ

八幡まるごと館だより

2021年4月9日/137号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

八戸対泉院の供養塔

＜3月にこんなことをしました＞

オカリナひまわり



習をしています。もう1年以上練習のみで、コンサートをしていませんのでドキドキします。あと数回で本番ですが、今までの練習成果が出せるように練習を。コロナ禍のために、3人、5人という日が結構続きました。中々集まることができないと皆でワイワイ

1日 半分ずつの参加でしたが、4月19日にコンサート依頼があり、15日からは全員で練習

イ言いながら練習していた時の時間がとても幸せな時だったと。オカリナでつながる関係です。

絵手紙講習会



10日 たけのこや土筆が登場。すっかり春らしくなりました。森本玲子さんに2013年教えていただき、5月で8年になります。オカリナ同様コロナ禍で参加数が平常の半分以下という寂しさでしたが

、細々とでも続けることを心掛けてきました。森本さんにそういう意味でもご負担をおかけしています。絵筆を持つ経験をさせていただき、この講習会が楽しみです。何でも学びですね。

八幡の歴史



18日 出口修さんは神領の確定ということで江戸時代のお話を。家康の朱印状361通より八幡宮領が守護不入、検地もないという当時とても優遇されていたこと。将軍が変わる毎に社務家(田中、善法寺、新善法寺、檀)も変わること。

正法寺の亀女が徳川家康の側室になったことも優遇される要因としてあったのかもしれない。そのお亀さんの書状まで見せていただきました。全く知らないできた八幡に踏み込んで教えていただいています。

折り紙教室



19日 この日は水引で梅結びのストラップ。実は講師の出口宏子さんが4月からお忙しくなられ、一応この日で折り紙教室は終わりとなりました。2018年の12月から折り紙、お話会等々し

ていただき、とても楽しく過ごすことができました。折り紙がこれだけ奥深いことか、お話会は何も見ずにお上手に話されて感動したことが思い出されます。宏子さんの益々の活躍を祈念しています。



左から3人目が宏子さん



ストラップ

楽しい理科の実験



26日 この日はサッカーボールを作りました。とは言っても、これはフラーレンC60という炭素原子が60個集まったの形で、サッカーボールの形をしていて、実際の大きさはナノレベルで1/10⁹ m(10億分の1)。発見した人はノーベル賞受賞され、身近なところでは活性酸素を抑える抗酸化作用があると化粧品に使われていると

のこと。12月のC₂₀と違ってこちらは難しかったです。悪戦苦闘でした。講師の木下章司さんには理科の実験長く、随分お世話になっています。

八幡まるごと館 4月・5月の予定 休館 4月11日(日) 5月1日(土)～5月5日(木)

<パソコン教室> 毎週月曜日 10時～12時です
4月5日(月)10時～12時 4月12日、19日、26日 パソコンを持って来て下さい。費用 300円(コーヒーつき)

<オカリナクラフ ひまわり> 4月19日(月)吉井松里公会堂で演奏のため4月7日(水)も練習
4月5日(月)13時～ 参加費100円 7日(水)、12日(月)、19日(月)12時、26日(月)

<絵手紙講習会> 4月14日(水)午後1時30分～ 講師 森本玲子さん 参加費 400円(コーヒーつき) 次回は5月13日(水)です

<歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N028>
4月22日(木)13時30分～ 講師出口修さん 参加費 100円 月1回です

<楽しい理科の実験 N038> 振り子で遊ぼう」参加費 300円(コーヒーつき)
前からの続きです 5月21日(金)13時30分～ 講師木下章司さん

いいかなど。食べ物でも衣服でも。前提として40年近く週一で農家さんからの野菜等を運んでもらっているのが大きいですが、それがなければ今の生活は成り立ちません。まるごと館の棚の野菜もよく利用します。

野菜の種まきをちょっとですが、数年前から始めています。この1年間めか床、沢庵、味噌と講師を招いての講習会はできませんでしたが、自分では作りました。夕方少しだけで、ほとんどテレビは見なくなりました。これがいつもの当たりな生活に。そんな生活が送れるのはこのコロナ禍でも働いて下さっておられる方々のおかげです。長明さんとはえらい違いです。はっはっはと笑って下さい。自分と自分の周りで生きていけることを目指して動いたらと。引用が長くなり、小さい字ですみません。また続きます。*餓鬼草紙のこと* 長明さんの生きた時代に描かれた絵巻物。飢えと渴きに苦しむ亡者となった餓鬼の世界を描いた。戦乱が繰り返された平安時代の終わりから鎌倉時代初めにかけて制作された。世相を反映していた。*孫が無事に保育園に行くようになりました。まるごと館で育てていただきました。(うえたにじゅんこ)